

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善プランの成果と課題

〈成果〉

- 調理・裁縫どちらにおいても、見本動画や作成説明動画をオクリンクプラスに軽量化してアップすることで、児童一人一人が各自の進度に合わせて見直すことができるようになり、一人一人の技術・技能向上だけでなく、やる気を高めることもできた。
- オクリンクプラスで振り返りや、作品の制作途中経過の写真の提出をさせることで、ポートフォリオファイルとして自分の成長を可視化しやすくなった。

〈課題〉

- 「オクリンクプラスの『みんなのボード』」を使って各自の考えを共有したり、作品を見合いコメントしたりする機会を増やし、協働的な学びを進める」という授業改善策については、6年生では実施することができたが、5年生では実施できなかった。
- 以下のような様子が少なくない児童に見られ、自己効力感の低さが見受けられる。
やる前から「無理」「できない」と口にし、作業に取り組む前から消極的な態度が見られる。課題が少し難しいと感じると手を止めてしまったり、取り組み始めてもすぐに「教えて」「分からない」と教員に助けを求めたり、友達との比較や周囲の目を気にして積極的に行動できない。
それは、失敗経験や成功体験の不足による不安や自分で考えてやってみる力への自信の欠如、自分で解決できるという感覚が薄く、失敗への過度な恐れ、挑戦する意欲の低さや、自分を肯定的に捉えられない不安感だと考えられる。

2 授業改善のポイント

自己効力感を高めるために

高学年	調理や裁縫での成功体験を増やす。 【6年生】 ○これまで学んできたミシン技術を5年生に伝授する機会を設けることで、自分の1年間の成長を実感させる。また、後輩が知らないことを教えることが成功体験となり、「やればできる」という自己効力感を高めるきっかけとする。 ○給食のメニューを各学級でテーマを決めて考え、実際に給食にしてもらうことで、学年全体の自信につなげる。 ○オクリンクプラスの「みんなのボード」を使って各自の考えを共有したり、作品を見合いコメントしたりする機会を増やし、協働的な学びを進める 【5年生】 ○1学期に取り組んだ手縫いの次のステップとしてのミシン操作で、各自の個性を生かせる作品作りを行えるようにする。作成の見通しをもちやすくするための資料を作成し、あきらめずに取り組める支援を行う。 ○家庭には自分や家族を支える仕事があることが分かり、自分の仕事をすすんで行うことで、家庭での自己有用感につなげる。
-----	---